資料１

クマ類の保護及び管理に関する現状

１．分布状況

クマ類の最新の分布状況を図１に示した。環境省が 2003 年に実施した第２回自然環境保全基礎調査と比較して、2014 年に日本クマネットワークが実施した分布調査では、ヒグマ・ツキノワグマとも全国のほぼすべての地域で拡大が認められた。市街地や農耕地のすぐ近くまで分布域が迫ってきている。

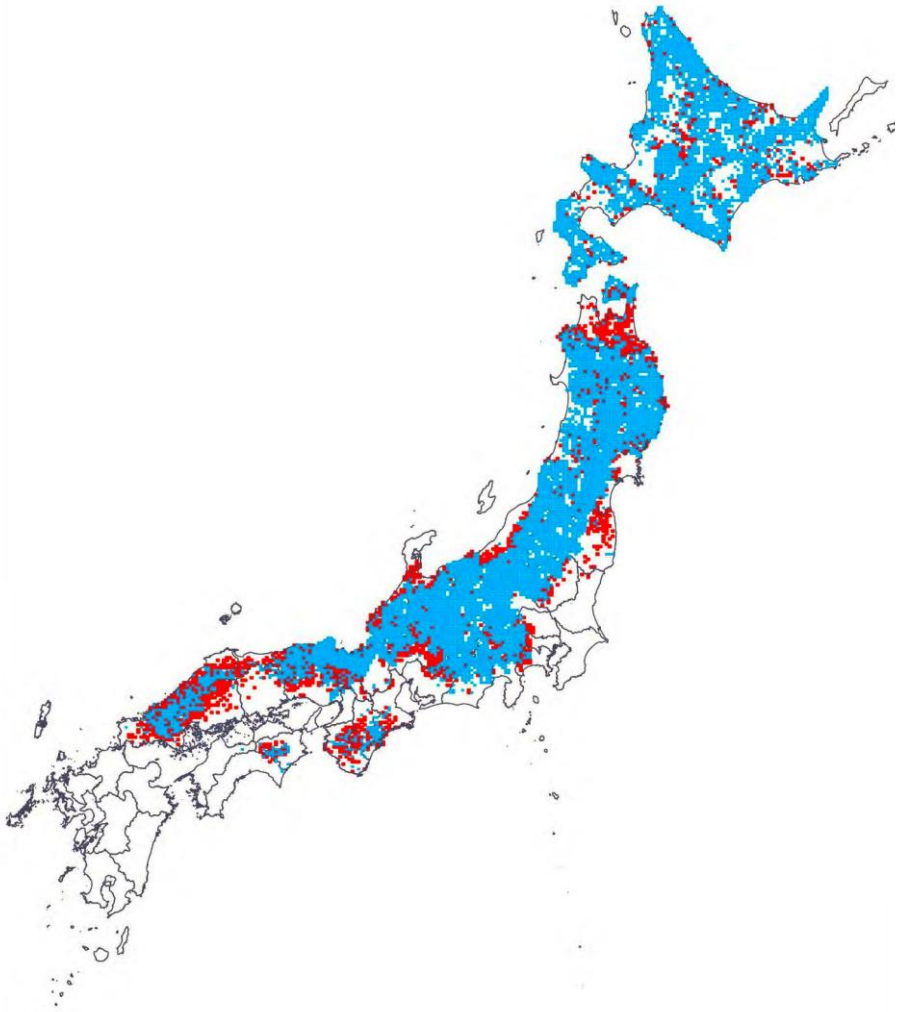

図１　クマ類の分布状況

※JBN（2014）「ツキノワグマおよびヒグマの分布域拡縮の現況把握と軋轢抑止および危機個体群回復のための支援事業」報告書より引用。環境省（2004）による分布確認地点は水色で、その後の分布拡大エリアは赤色で示されている。

２．捕獲状況

ヒグマの捕獲数を図 2 に、ツキノワグマの捕獲数を図 3 にそれぞれ示した。クマ類は狩猟獣であるため、狩猟及び許可捕獲（特定計画による個体数調整及び有害鳥獣捕獲）が行われている。ヒグマ、ツキノワグマともに、近年は許可捕獲の占める割合が高くなっている。

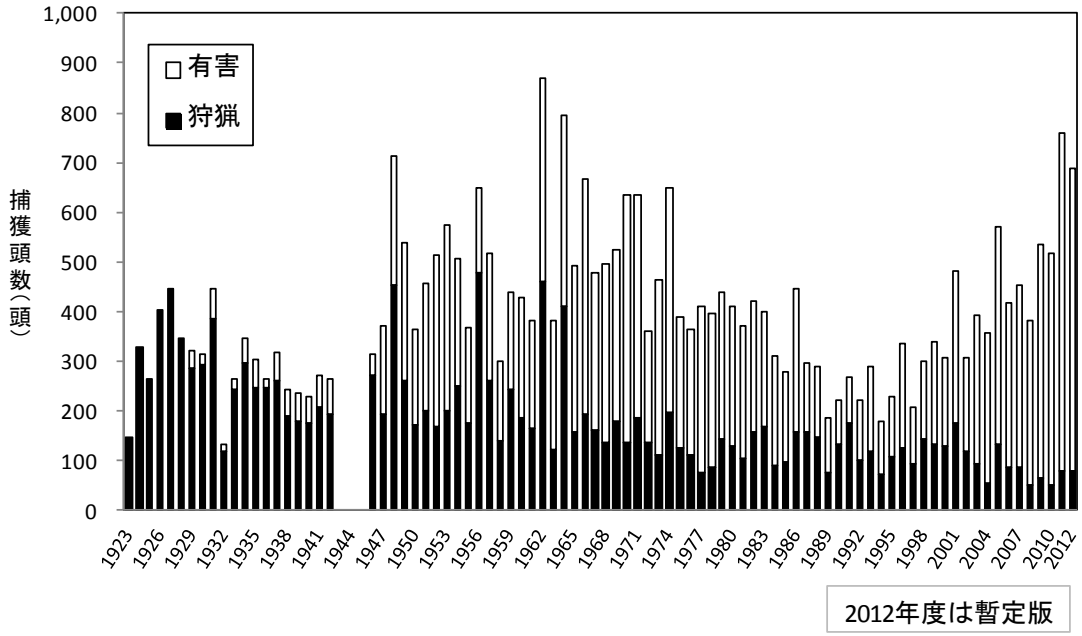

図 2　ヒグマの捕獲数の推移（1923-2012 年度）

※鳥獣関係統計（環境省 HP）より作成

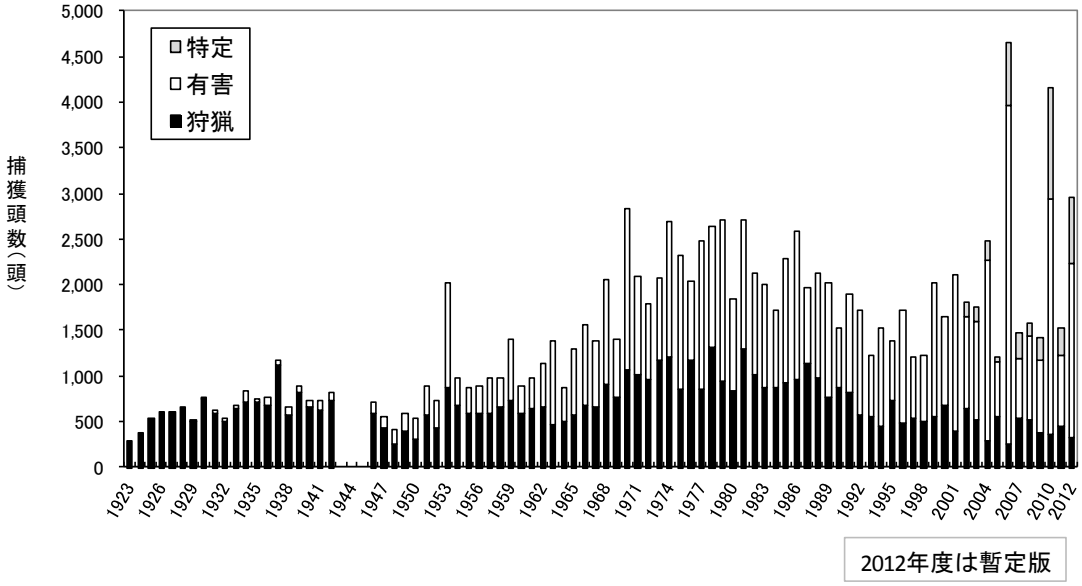

図 3　ツキノワグマの捕獲数の推移（1923-2012 年度）

※鳥獣関係統計（環境省 HP）より作成

今年度の許可捕獲数はツキノワグマが 3429 頭と、過去 3 番目に多かった。一方、ヒグマは 518 頭であり、過去 5 番目に多い頭数であった（図 4）。

許可捕獲数の推移を地方別に見ると、東海地方では今年度の許可捕獲数が最も多く、東北地方、関東地方、甲信越地方、北陸地方でも例年よりも多かった（図 5）。一方、近畿地方及び中国地方では、今年度の許可捕獲数が例年と比べ特別多いというわけではなかった。今年度の許可捕獲数は全国的には多かったが、地方別に見ると傾向に差があった。

なお、今年度の許可捕獲数は 11 月までの速報値であり、最終的な集計値とは異なる場合がある。

※各地方の許可捕獲数は以下の都府県の集計値。

東北地方　：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東地方　：栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県
甲信越地方：山梨県、長野県、新潟県
北陸地方　：富山県、石川県、福井県
東海地方　：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿地方　：滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国地方　：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

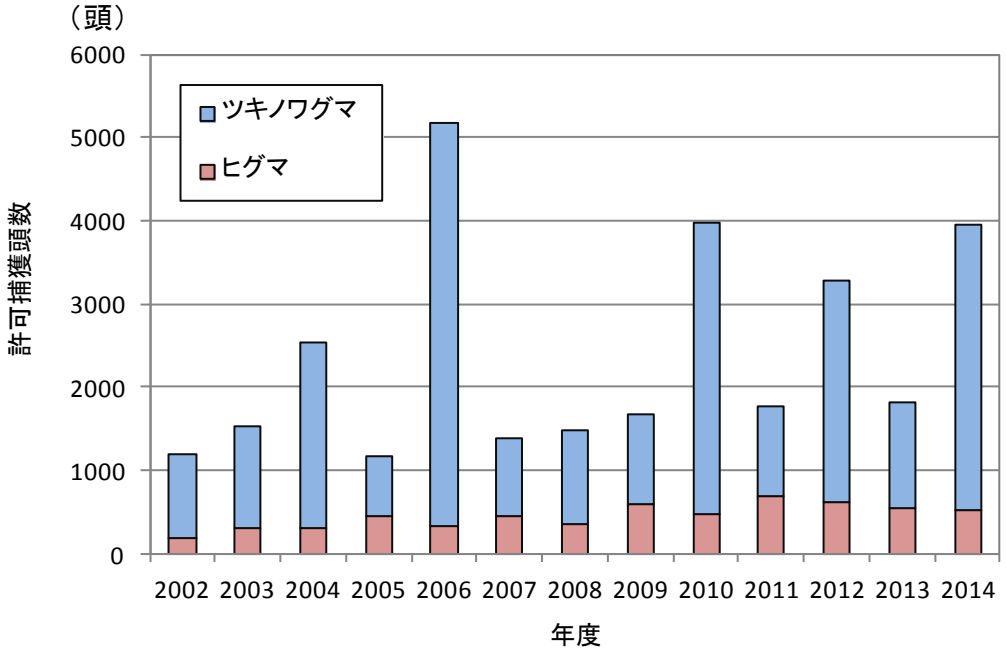

図 4　近年のクマ類の許可捕獲数
※環境省 HP より作成（2014 年度は 11 月までの暫定値）
※捕殺数及び非捕殺数の合計値

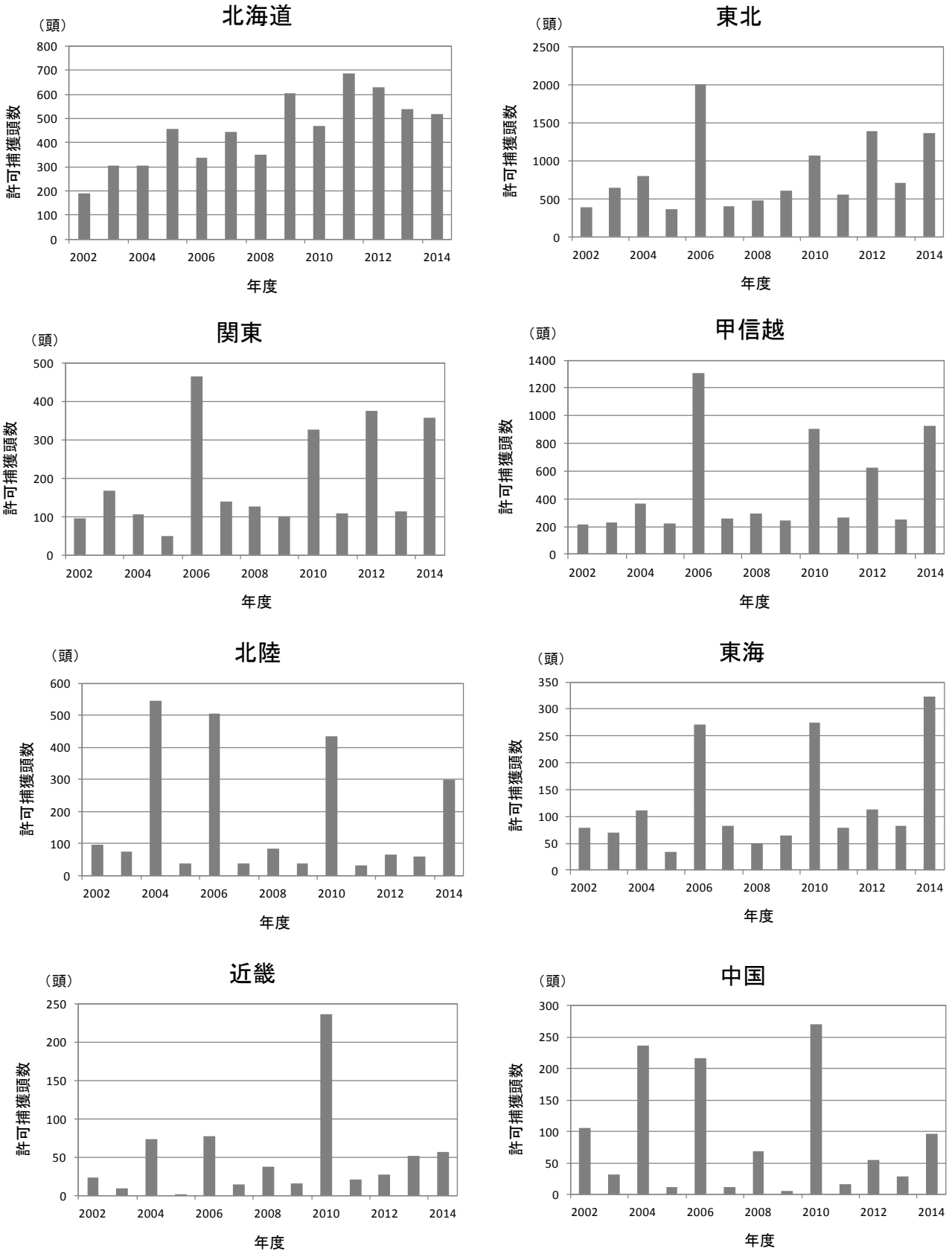

図 5　近年のクマ類のブロック別許可捕獲数

※環境省 HP より作成（2014 年度は 11 月までの暫定値）

※捕殺数及び非捕殺数の合計値

３．被害状況

（１）農林業被害

クマ類による農作物被害面積は、近年の野生鳥獣による農作物被害面積のうち全体の約 1%と低く、1,000ha 前後で推移している（図 6）。農作物被害量は全体の 2～3%と割合としては低いが、近年は 15,000t 前後で高止まりしている（図 7）。農作物被害金額も全体の 2～3%と低い割合であり、概ね横ばいで推移している（図 8）。

森林被害面積については、クマ類が野生鳥獣全体の約 1 割を占めている。年度間のばらつきはあるものの、1990（平成 2）年度までは減少傾向にあったが、その後増加傾向を示し、2006（平成 18）年度までは 500ha 前後で推移した。その後急激に増加し、2011（平成 23）年度までは 1,000ha 前後で高止まりしていたが、2012（平成 24）年度以降は 600ha 前後に減少した（図 9）。

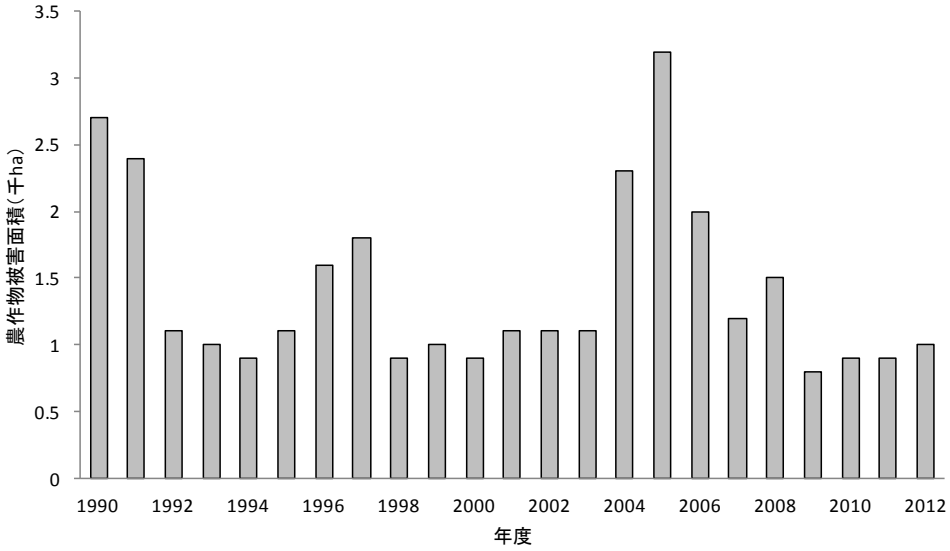

図 6　クマ類による農作物被害面積の推移（千 ha）

※農水省 HP データより作成

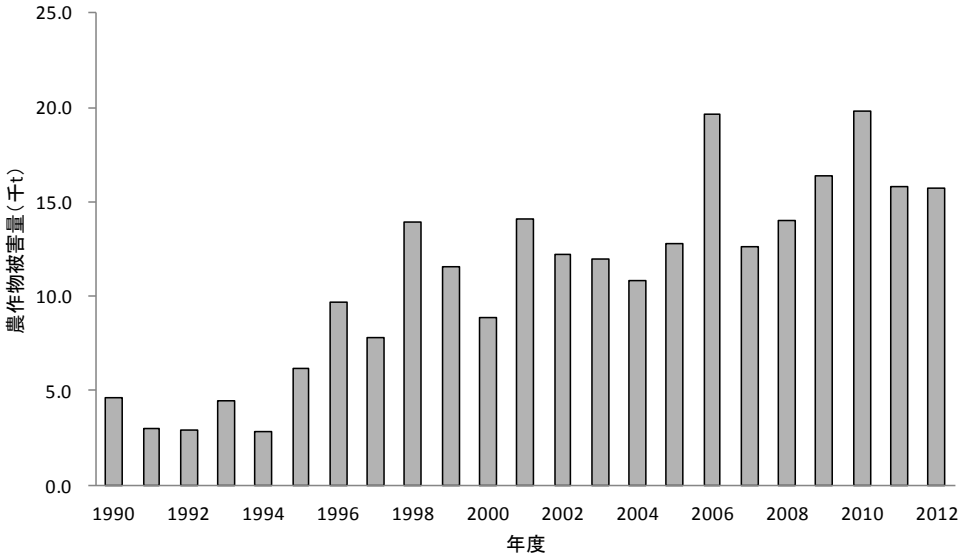

図 7　クマ類による農作物被害量の推移（千 t）

※農水省 HP データより作成

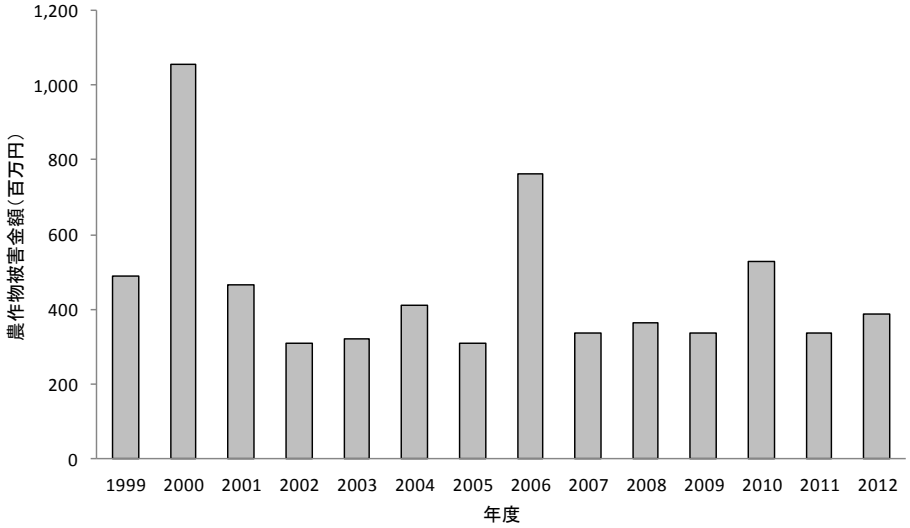

図 8　クマ類による農作物被害金額の推移（百万円）

※農水省 HP データより作成

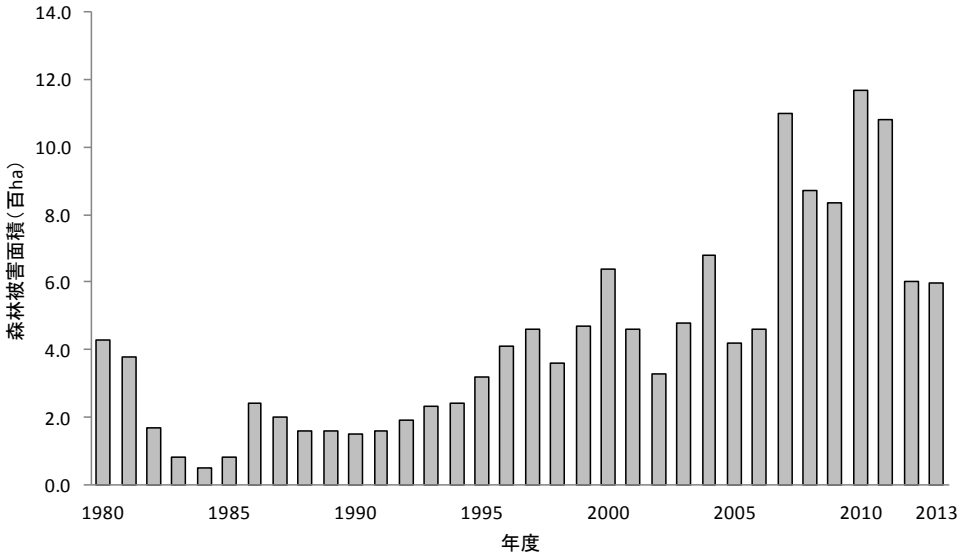

図 9　クマ類による森林被害面積の推移（百 ha）

※農水省 HP データより作成

（２）人身被害

許可捕獲数が多い年に人身被害件数も多い傾向にあり、今年度は人身被害件数が 112 件と、2004（平成 16）年度以降では 3 番目に多かった（図 10）

また、クマ類による負傷者数の推移をみると、ツキノワグマの大量出没があった 2004（平成 16）年度と 2006（平成 18）年度及び 2010(平成 22) 年度には 100 人以上の負傷者が出た（図 11)。なお、今年度は 11 月までの暫定値ではあるが、121 人と多くの負傷者が出た。

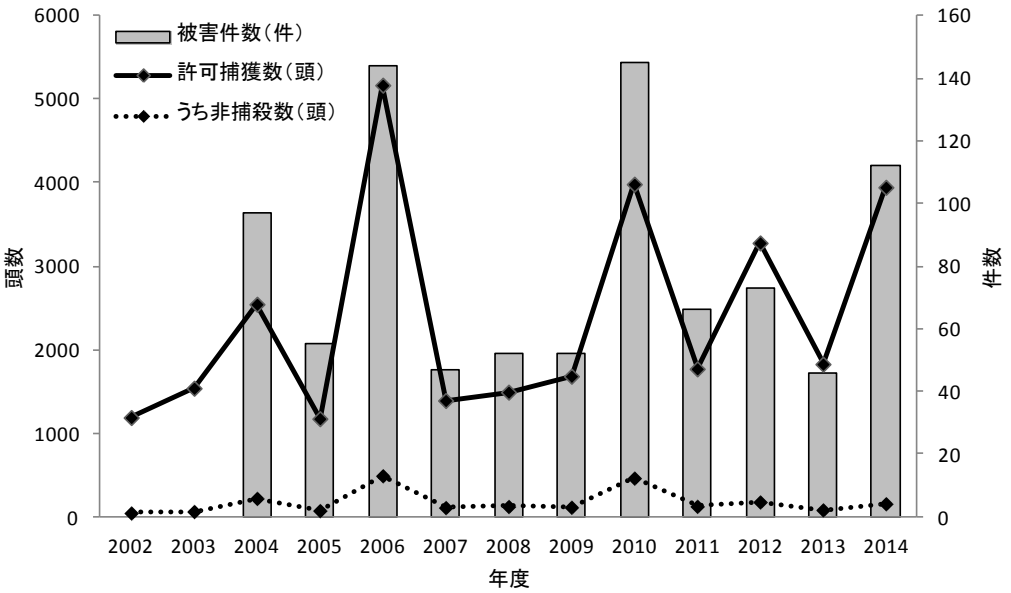

図 10　クマ類の許可捕獲数及び人身被害件数

※環境省 HP より作成（2014 年度は 11 月までの暫定値）

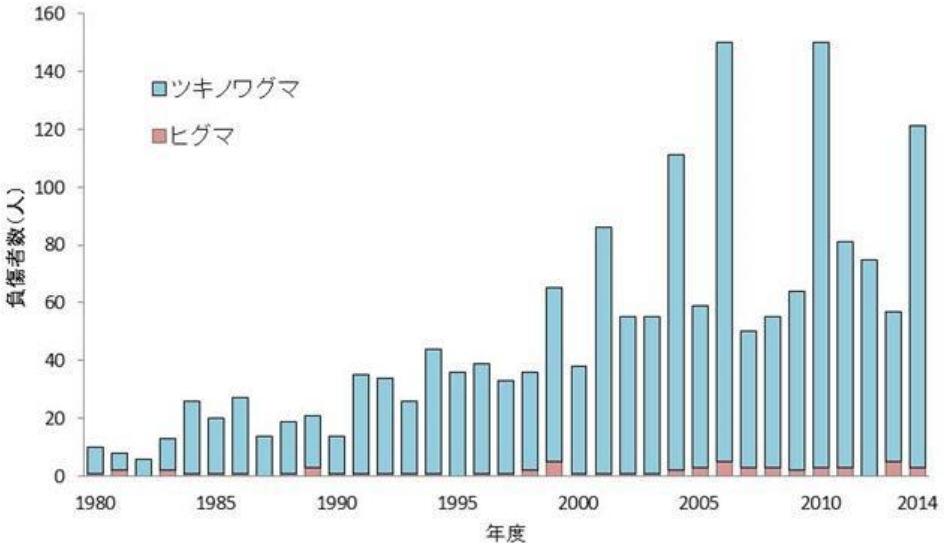

図 11　クマ類による負傷者数の推移

※環境省 HP より作成（2014 年度は 11 月までの暫定値）

４．参考文献

日本クマネットワーク．2012．日本のクマを考える　繰り返されるクマの出没・私たちは何を学んできたのか？― 2010 年の出没と対策の現状 ― 報告書. 51p

Oka, T. 2006. Regional concurrence in the number of culled Asiatic black bear, *Ursus thibetanus*. Mammal Study. 31(2):79-85